

今そして未来

県環境アドバイザーからの提言

▶▶19

「ごみ減量化のため、前橋市で十月から分別方法が細分化された。最終処分場への埋め立て量を減少させる見込みだが、消費者が単に区分し、排出するだけでは、その実現は厳しいだろう。」

「不燃ごみだった一部が可燃ごみへ移行し、プラマーク付きの容器や袋が再生業者に回収されることになった。自治会の説明会で、分別徹底を呼び掛けるなど粘り強く啓発活動しても、あくまで仕分け上の注意であって、それが減量化に結び付くというのは難しそうだ。」

学校でも環境教育を通して学ぶ機会も増えて

協力し合って減量化を

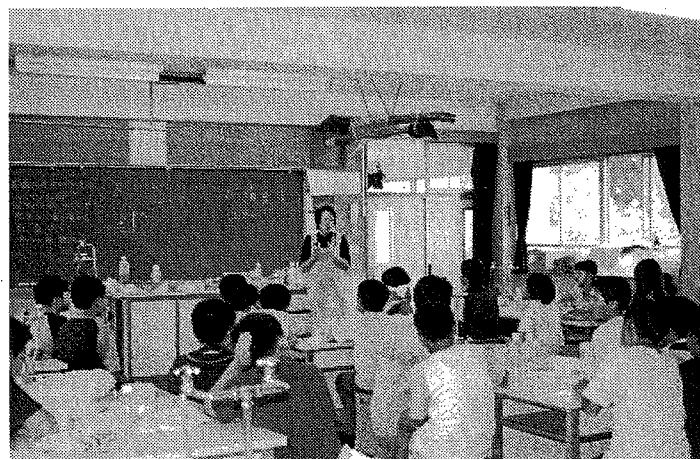


【おぼろぎ・ひなこ】

きた。環境学習授業を手伝ってみて、ペットボトルやアルミ缶、スチール缶などが、何を原料としてつくられているのかさえ知らない子供たちもいることを知った。

子供たちが悪いのではない。情報不足であり、学ぶ機会がないのである。大人も含めて知っているつもりが知らないのだ。衣食住にかかわる物品が原料か

ら製品になるまでの過程を意識して知ろうとしなければ、資源の枯



前橋市の小学校の環境学習風景。牛乳パックからはがきをつくるリサイクルに取り組んだ

【おぼろぎ・ひなこ】
前橋市下石倉町。県環境アドバイザー幹事、利根西環境フォーラム会員、元総社エコクラブサポーター。

「前橋市下石倉町。県環境アドバイザー幹事、利根西環境フォーラム会員、元総社エコクラブサポーター。環境アドバイザークラウドが継続されていくのだから、自然と共生しながら、家族単位、地域ぐるみで環境について学んでほしい。新品であっても不用品となればごみになる。欲しい物と必要な物を見極めて、不要となる物を極力避け、簡易さ、便利さに負けずに取り組みたい。「買う時の努力はするが、ごみを捨てる時に量やその内容をもっと考えてほしい」。ごみが私たちに投げかけるメッセージのようにも思える。ごみの減量化は、私たち消費者一人ひとりの意識した理解のもとに、協力し合ってこそ成り立つものだろうと思う。」

(鈴木 浩子)